

学園聖句： 「光の子らしく歩きなさい」
(エペソ人への手紙5章8節)

〒807-0861 福岡県北九州市八幡西区城川町12番10号
TEL 093-602-2100 (代表) FAX 093-692-5690
E-mail: info@orioaishin.ac.jp
URL: http://www.orioaishin.ac.jp/

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製薬衛生師コース



折尾愛真学園は、おかげさまで、2015年(平成27年)、学園創立80周年を迎えることができました。1935年(昭和10年)に折尾高等簿記学校としてスタートした本学園は、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学を擁する総合学園に発展して参りました。本学園を巣立った卒業生は、3万人を超え、社会の第一線で、家庭や地域で、海外で、それぞれの分野で社会を支えるべく活躍しています。本学園が今日を迎えられたのも皆様のお力によるものと改めて感謝申し上げます。今一度、建学の精神に立ち返り若き魂の育成に努めてまいります。

5年一貫教育看護科・看護専攻科

戴帽式

5月8日(金)、第48回戴帽式がありました。戴帽生一人ひとりにナースキャップが渡され、これから始まる臨地実習に不安や期待を持ちながら臨んでいました。代表の石原海帆乃さん(東谷中学出身)は、「謙虚な気持ちで勉学に励み、支えて下さる先生方や家族に感謝しながら実習では精一杯頑張ります。」と宣誓していました。実習は、6月1日(月)～26日(金)の4週間済生会八幡総合病院を中心に行われます。



ナイチンゲール誓詞
を暗唱する戴帽生



戴帽宣誓をしている
石原海帆乃さん



2年6組



製菓衛生師コース

5月9日(土)、製菓衛生師コース3年生が大原医療福祉製菓専門学校の特設授業に臨みました。ステファン・ピアンコニ先生によるフランス菓子の基本的な技術や知識を学ぶために2年前から始められた授業に、生徒たちも興味も持って真剣に実習に臨んでいました。



歓迎遠足

5月1日(金)、高校1年・2年は九州国立博物館と大宰府天満宮周辺への遠足に出かけました。



実習中のステファン・ピアンコニ先生

ユニバーシアード出場決定

宮地真知香(24年度卒)さん

今年7月に韓国・光州で開催される「第28回ユニバーシアード競技大会・テニス競技」の日本代表選手(男子4名、女子4名)が日本テニス協会から発表され、本校の卒業生宮地真知香(早稲田大4年)さんが選ばれました。ユニバーシアード競技大会とは、国際大学スポーツ連盟(FISU)が主催する学生を対象にした国際総合競技大会で、2年ごとに開催される。1959年にイタリア・トリノで第1回夏季大会、1960年にフランス・シャモニーで第1回冬季大会が開催された。当初は奇数年に夏季大会、偶数年に冬季大会が行われていたが、1980年代から夏冬ともに奇数年に開催されている。健闘を祈ります。

プレー中の宮地真知香さん



学校見学会(予定)

- ・ 学校紹介
- ・ 授業体験
- ・ 校内見学
- ・ クラブ紹介
- ・ 進学相談
- ・ 入試対策 等

第1回 7月11日(土)

第2回 9月19日(土)

第3回 10月17日(土)

第4回 11月14日(土)

「草創期の黒田藩と栗山大善」黒田家と宇都宮家の抗争⑧

秀吉が天正十五年(1587)島津征伐で、肥後隅本(熊本)に出陣した折、対馬の宗氏が家老調信を使者にたてて、秀吉のもとに送り、臣下の礼をとりたい旨を申し出ます。勿論、快く申し入れを許します。しかし、同時に秀吉は宗家と朝鮮国との交易の誼から、朝鮮国王の来日の仲介を早急に取り計らうよう命じます。それには、秀吉には予てから抱いていた朝鮮・明国を含めた東南アジアへの領土的野心があったからです。調信がいかにも朝鮮が対馬藩に付属しているかのような発言をしたから、秀吉は誠に好都合と考えたに違いありません。

秀吉が帰路箱崎に滞在した折、宗義調(よしのり)・義智父子が箱崎に出向き秀吉に謁見します。その折、秀吉は調信に命じたように、かさねて強く、翌年の天正十七年(1588)中には朝鮮国王の来日を実現するよう命じます。当時の対馬藩はむしろ朝鮮の李朝に臣事していたぐらいですから、財政的にも朝鮮との貿易によって維持されていたと云えましょう。宗家にとっては、臣下の礼をとる朝鮮王国の来日を要請することなど出来るはずはありません。まして、事を構えることは死活問題で、宗家にとっては事態の深刻さに困り果て、思案に困窮を重ねて打開策を探るのです。室町時代から、日朝の交流があって、朝鮮国から通信使の来日の歴史的事実に倣って、李朝にお願いして通信使の来日を実現させることとなります。しかし、秀吉の野望は実は隣国の明国にあった訳で、意のままにならない朝鮮を討ち、陸路明国に攻め入る計画をたてることとなります。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より